

移住労働者は遊びに来ているのではなく、働くために来ていると自覚すべきです。雇い主も自分の家族を介護することがいかに大変であるかを知るべきです！

——來台 14 年目のインドネシア人介護労働者のリリンさんに聞く

話者：リリン（Ririn Arums） 聞き手：廖雲章（リャオ・ユンジャン） 構成：謝瑩（シエ・イン）

2026 年 5 月 23 日

原文 <https://opinion.cw.com.tw/blog/profile/525/article/17383>



台湾の皆さんには、移住労働者を雇っている誰か一人の投稿だけで、すべての移住労働者がそのような素行不良であると思わないでほしいです。ほとんどの移住労働者は非常に真面目に働いていますが、必ずしもその様子が報道され、皆さんの目に触れるわけではないのですから……。 （画像提供：リリン）

外国籍の移住労働者（以下、移住労働者）の課題を巡り、ソーシャルメディア上ではしばしば 2 つの対立する論調が見られます。一方は、移住労働者は言葉も土地勘もない場所へやってきて、異なる文化や見知らぬ環境に直面し、現地人が嫌がるキツくて過酷な仕事を引き受けているのだから、より友好的に接し、異国の地で幸せに過ごせるようにすべきだという意見。もう一方は、移住労働者は台湾ですでに母国の給料の数倍の給与を得ており、労働意識の高まりとともに仕事を選び好みし始め、より多くの福利厚生を要求するようになり、待遇への不満から失踪・逃亡するケースもあり、雇主側に言葉にできない苦悩をもたらしめているという意見。これら 2 つの主張の論争は近年ますます先鋭化しており、互いのコミュニケーションが困難な状況を生み出しています。

第 96 回目の「独立評論@聴天下」では、台湾で 10 年以上働いているインドネシア人移住労働者のリリン（Ririn Arums）さんをゲストに迎えました。中級技術を持つインドネシア人介護労働者の彼女は、かつて「移民・移住労働者文学賞」を受賞した経歴を持ち、これまでに何人もの雇主との関係構築を経験してきたほか、この 10 余年間における台湾の移住労働者に対する対応の様々な変化を目撃してきました。インターネット上で特定の雇主や移住労働者の個別のケースを標的にした「公開処刑」が頻発し、双方が膠着状態に陥っている現在の対立関係を、彼女はどのように見ているのでしょうか。

【聴天下：天下雑誌のPodcast 【独立評論 EP.96】デジタル時代の介護労働の課題：移住労働者に対するウェブでの「公開処刑」をやめて、共生コミュニティを築く。音源はこちらから。

<https://www.youtube.com/playlist?list=PLyYI2fZBFmkL839C8AFnvaXmhXCZMI0yM>

公園での無断撮影事件：高齢者と一緒に外出している移住労働者たちについて

私は約7年前、移住労働者の雇主たちが集まるグループに参加したことがあり、多くの雇主が移住労働者に対して不満を漏らしているのを聞きました。ここ数年で状況がより悪化していると感じるのは、移住労働者への不満を綴った1つの投稿に対して、多くの人々が同調するコメントを寄せるようになった点です。その中には、実際に雇主ではなく、移住労働者の実態を理解していない人も含まれています。しかし彼らはグループ内の不満を目にするうちに、次第に「なるほど、移住労働者はこんなに酷いものなのか」と思い込んでしまいます。不満を持つこと自体は自然なことだと思いますが、もし自宅の移住労働者に不満があるのなら、まずは本人と話し合うべきではないでしょうか。それでも解決しない場合は、仲介業者（エージェント）を通じて対話することもできるはずです。

最近、移住労働者を無断で撮影する現象が多発しています。介護労働者が車椅子を押して高齢者を公園に連れて行き、そこでの高齢者とのやり取りや、他の移住労働者と喋っている様子が見られますが、おそらくわずか数分間の出来事に過ぎません。しかし、それが通りすがりの見知らぬ人に撮影され、インターネット上に投稿されて「移住労働者は喋ってばかりで、高齢者をそこに放置して日光浴をさせている」などと公開処刑されています。まず私が問いたいのは、このような無断撮影を行い、他人の映像をインターネット上に公開する行為は合法的なのだろうか、ということです。これが最初の疑問です。

私は現在、あまり公園には行きませんが、多くの友人が高齢者を連れて公園へ日光浴に行っていることを知っています。そこで友人たちと会い、一緒に食べ物を食べたり、おしゃべりをしたりすることは、実際にはごく普通のことです。私自身も以前、高齢者を連れて公園に行っていた際、皆で食べ物を分け合い、高齢者にも「一緒にどうですか？」と声をかけていました。移住労働者同士が分け合う時、高齢者も実際には私たちと行動を共にしているのですが、写真を撮る人はその光景を見ていない可能性があります。また、高齢者の中には会話や交流をあまり好まない人もいます。私たちが彼らを公園に連れて行くのは、日光浴をさせ、少し運動をさせるためです。その際、たまに同郷の友人に会えば、当然相手と少し言葉を交わすこともありますが、それは決して行き過ぎた行為ではありません。

もちろん、移住労働者がスマートフォンの端末を高齢者の肩の上に置いて画面を操作しているのを見たことがあり、そのような行為は不適切です。しかし、すべての移住労働者がそのような行動をとるわけではありません。私たちは公園で高齢者をただ放置し、移住労働者だけで楽しそうに喋っているわけではありません。時には皆で歌を歌い、高齢者が隣でそれを聴き、中には楽しそうに参加してくれる高齢者もいます。そのため、1枚の写真だけを見て物事がこうであると決めつけないでいただきたいです。長期間の観察と関わり合いを経て初めて、事実にとどりが着くことができるのです。もし通りすがりに1枚の写真を無断で撮影しただけで、移住労働者が高齢者を放置して面倒を見ていないと非難するならば、それは移住労働者に対して不公平であると感じます。

多くの高齢者は外出を嫌がるため、移住労働者は彼らに日光浴をさせるために、半ば強制的に連れ出さなければなりません。私が以前介護していたおばあさんも、外出を嫌がる時がありましたが、いざ外に出て他の友人（台湾人であれ他の移住労働者であれ）に会うと、機嫌が良くなり、彼らとおしゃべりをしたり色々質問したりしていました。現在介護しているおばあさんも同様で、家にいる時はテレビを見るか、食事をするか、寝るかだけであり、私はこのような状態は良くないと考えています。彼女はこの半年間治療を受けており、外出が比較的に少なくなりました。以前は速く歩くことができましたが、次第に力がなくなってきました。そのため、私は毎日彼女に「外に行かない？少し運動しなきゃだめだよ！」と言い聞かせています。彼女が外に出て活動できるようにすることで、本人もより元気になるからです。



多くの雇主は、お金を払っている側が最も偉いと考えがちです。当然、それ自体は間違いではありませんが、給与を支払っているからといって、すべての事柄を移住労働者に丸投げして良いわけではありません。やはり、自身の家族である高齢者の状況を理解することが不可欠です。（画像提供：Yi Chuan Hsueh/Shutterstock）

お金を払っているからといって、すべての用事を介護労働者に丸投げして良いわけではないのです

多くの雇主は、お金を払っている側が最も偉いと考えがちです。当然、それ自体は間違いではありませんが、給与を支払っているからといって、すべての大小の事柄をすべて移住労働者に丸投げして良いわけではありません。やはり、自身の家族である高齢者の状況を理解することが不可欠です。時には、自身で自分の親を 1 日か 2 日でも介護してみれば、なぜ一部の移住労働者がおじいさんやおばあさんに対して声を荒らげてしまうのか、その理由が理解できるはずですよ。

私が以前介護していたおじいさんのケースでは、病院への付き添いなど毎日の細々とした雑用はすべて私が処理していたため、おじいさんに何か状況が生じた際も、すべて私が決定を下していました。雇主は、自分はお金を払ってすべてを解決するために人を雇ったのだと考えがちですが、私はそれも間違っていると思います。高齢者が望んでいるのは、実際には自分の家族がそばにいてくれることです。皆さん、月曜日から金曜日までは仕事で忙しいかもしれませんが、土曜日や日曜日のうち、実際には 1 日を選んで親に付き添い、彼らの現在の状態を理解することができるはずです。さらには移住労働者と対話し、「おじいさんやおばあさんの最近の様子はどうか」「何か必要なものはあるか」と尋ねることもできます。

実際、私が現在介護しているおばあさんに対し、時には私も声を荒らげてしまうことがあります。これらは私の雇主もすべて把握しています。当然、おばあさんと口論すべきではなく、それは私の落ち度です。しかし、雇主自身が自分の母親の性格がどのようなものであるかを理解しているため、「もし自分であっても同じようにしてしまうだろう」と理解を示してくれています。さらに言えば、一部の移住労働者が介護しているのは認知症の高齢者であるかもしれません。認知症の患者は時に夜間に眠ることができず、日中に睡眠をとることがありますが、雇主は移住労働者に対し、日中も仕事をすることを要求し、高齢者に合わせて眠ることを許しません。彼らは、この移住労働者が夜間も眠ることができていないという事実を知らないのです。雇主は状況を適切に把握し、おじいさんが日中に眠っている間は、移住労働者も合わせて休息をとるようにすべきです。



私が台湾に来たばかりの当時、私たちはただただ真面目に働いていました。インドネシア人移住労働者の多くはムスリムだったこともあり、母国で結婚している人は、台湾で不適切な関係を持つべきではないと考えていました。（画像提供：リリン）

台湾人の目に映る不公平な移住労働者の待遇、その事実の実態とは

台湾では近年、移住労働者を巡る議論や論争が多く起きていますが、私自身の感覚としては、多くの台湾人が「政府は身内（台湾人）に対して少し不公平な扱いをしているのではないか」と感じているように見受けられます。外国人がここへやってきて手厚い福祉を受け、相対的に身内への待遇がそれほど良くないように見えることに對し、不満を抱くのは非常によく理解できます。

私が理解できないのは、なぜこれが少数の人々の状況から、あたかも社会全体が非難するような事態へと発展してしまうのかという点です。例えば、失踪した移住労働者が出産し、それに伴う管理上の問題が生じたとします。1人か2人の人間がこの件について批判的な投稿を始めると、次第に多くの人々が不満を漏らすようになり、多くの人がおそらく状況をよく理解しないまま便乗して非難しています。

（聞き手：実際、もし移住労働者が合法的な身分を持ち、労働保険や健康保険を支払っているならば、彼女が産前産後休暇や関連する医療リソースを享受できるのは確かです。これらの子どもたちの多くは誕生後にインドネシアへ送り返されますが、もし台湾に留まる場合は、定員加配という形で台湾の小学校に通うことになります。ただし学籍は与えられません。これは台湾人のリソースを圧迫するものではありません。しかし、移住労働者は国民ではないため、なぜ彼らの権利が台湾人とこれほど近く設定されているのかについて、多くの台湾人が不満を抱いています。）

移住労働者が台湾で妊娠する傾向は、近年増加しています。私が台湾に来たばかりの当時、私たちは働くためにここへ来ており、ただ真面目に働いていました。インドネシア人移住労働者の多くはムスリムということもあり、インドネシアで結婚しているのなら、台湾で不適切な関係を持つべきではないと考えていました。しかし現在では、「インドネシアに夫がいるとしても、ここでは別の男性と付き合っても良いのではないかと考え始める人が

増えています。また、元のパートナーとの関係が良くないため、台湾で新しい交際相手を作り、肉体関係を持って予期せぬ妊娠に至るケースもあります。

移住労働者の側に対しては、政府が移住労働者へどのように身を守るべきか、もし本当に妊娠の計画がないのであればどのように避妊すべきかを指導する援助ができると考えます。恋愛を禁止することは不可能であり、肉体関係を持つことを制限することもおそらく不可能ですが、移住労働者に対して妊娠を回避する方法を教えることは可能です。次に、もし本当に台湾で結婚し、子どもを産みたいと考えているのであれば、事前に雇主と話し合うべきです。子どもを産む場合、どのように対処するのか。仕事の調整はどうするのか。出産直後にすぐ働くことは不可能であるため、誰が手助けをできるのか。政府からはどのような支援が得られるのか。子どもの今後の見通しはどうするのか、といった点です。

（聞き手：実際、この部分についてはすでに施策が始まっています。もし移住労働者が出産を決意した場合、仲介業者を通じて雇主と交渉することが可能であり、これには『長期介護 3.0』の代替要員申請も含まれます。しかし、利用者の側からは、代替要員は雇っている移住労働者のように 24 時間いつでも待機してくれるわけではないと感じるケースもあります。私たちは移住労働者に対し、完全に結婚や出産を禁止することはできないため、この部分の制度設計を適切に行う必要があります。）



現在のソーシャルメディア上における移住労働者と台湾人の衝突に対し、双方が互いに尊重し合うべきです。
（画像提供：Kmpzzz/Shutterstock）

台湾人も移住労働者も、互いに理解し尊重し合うべきです

もし「移住労働者が台湾へ来る前に、あらかじめ知っておいてほしいこと、事前に教育を受けておいてほしいことは何か」と聞かれたら、以前の私であれば、言語の習得や家事の能力と答えていたでしょう。しかし今では、性教育も非常に重要ですし、台湾の文化を学ぶことも大切だと思います。

もう一方で、働くために来るからには持っておくべき心構えというものもあります。私は移住労働者ですが、雇主の立場に立って考えることもできます。現在の移住労働者の中には、確かに真面目に働かない人がいます。「インドネシアにいた頃は毎日インターネットをして、色々な場所へ出かけて生活を楽しんでいたのだから、台湾に来て同じように過ごしたい」と考え、比較的厳しい雇主に当たると、すぐに雇主の変更を要求したり、ここは

自分に合わないと不満を漏らしたりするのはです。私は、これはあまり良い心構えではないと感じます。私たちは働くために台湾へ来ているのであって、楽しむために来ているではありません。もし楽しみたいのであれば、まずは自分の仕事をしっかりと全うした上で、雇主と適切にコミュニケーションをとるべきです。しかし、仕事をやり遂げることが大前提です。

私は現在のようにおばあさんを介護し始めた当初、やはり非常に大変でした。しかし、私はインターネット上でこれら仕事の苦労を共有することはせず、自分が楽しかった出来事だけを共有していました。私は、これが彼らに対する尊重であると考えています。つまり、まずは自分の仕事をしっかりと行い、本来は自分の担当ではない仕事であっても、手助けをしてきました。当然、給与に対する要求はありますが、自分の本分である仕事を終えた後に、もし他の任務が課せられるのであれば、「追加の要求をしても良いですか？」と尋ねることができます。

例えば現在の私は、「休みが欲しい」と伝えていますし、それほど忙しくなければ自分の時間が欲しいと求めています。時には、すでに休みの計画を立てていたにもかかわらず、雇主から突然電話があり「子どもの面倒を見てくれないか」と頼まれることもあります。もしその休みが自分にとって特に重要でなければ、私はその依頼を承諾するでしょう。今回は休まない代わりに、別の日に変更して休むことはできないか、とそのように雇主と話し合うのです。移住労働者の友人のなかには、遊ぶことが大好きで、一日中スマートフォンを見て、より多くの休みや高い給与を要求する人がいることを私は知っています。もし私が雇主の立場であれば、そのような要求は受け入れられません。

現在のソーシャルメディア上における移住労働者と台湾人の衝突に対し、私は双方が互いに尊重し合えるようになることを望んでいます。台湾の皆さんに対しては、誰か一人が自分の雇用する移住労働者について投稿した内容を見て、すべての移住労働者が不良であると思わないでいただきたいです。多くの移住労働者は非常に真面目に働いていますが、彼女らの姿が必ずしもメディアに報道され、皆さんの目に触れるわけではないのです。また移住労働者に対しては、皆さんが真面目に働くことを望んでいます。ここへお金を稼ぎに来たからには、まずは仕事をしっかりと全うし、その後に他の要求をすべきです。私たちは他人の考えを変えることはできませんが、自分自身を変えることはできます。これが、私が皆さんに最も伝えたいメッセージです。